

# 京都で写真撮影

京都の地理・歴史を学ぶことが  
写真表現を広げる理由

# 風景写真が一番上手な人

---

・その土地に「通い」、「暮らし」している人。

・同じ場所での季節の変化を知る人。

・光の入り方(春夏秋冬)を把握できる人。

・時間の経過と色彩の変化に気付く人。

・「伝えること」に「こだわり」のある人。

---

京都の撮影が上手な人は、京都に住む人です。  
京都は季節表現の最適な教材、そのものです。

# 京都を学ぶ = 表現の引き出しを増やす。

- ・「この場所」「この季節」「この時間」  
写真で語る、語れる力が身につきます。
- ・「構図」「テーマ選定」「和文化への関心」
- ・ 地元の魅力の発信意欲、発信力の向上。

誰もが、情報発信が可能な時代です。

京都は知るほど、撮りたくなる街です。

# 京都は日本の歴史と美の集約地

寺社仏閣・・・世界遺産 門跡寺院 極楽浄土 鎌倉仏教 等

町並み・・・京町家 花街(歌舞練場) 坂道 三条・寺町通 等

文化行事・・・祇園祭 葵祭 五山送り火 仏事 神事 等

四季折々の自然・・・**山紫水明(山々と水辺)** 庭園 桜 紅葉 等

伝統芸能・・・茶道 華道 香道 歌舞伎 等

伝統工芸・・・京焼 染色 金属・竹工芸 和紙 扇子 等

和装・着物・・・友禅 西陣織 体験 等

ものづくり都市・・・学校 研究所 先端技術 疏水 等

食文化・・・野菜 食材 地下水 酒蔵 菓子 宇治茶 等

被写体そのものが物語を持っています。

歴史を知ると写真は物語になります。

---

寺社建立の理由や文化財の時代背景を理解することで、「いにしえ」を再現します。

禅宗 → 五山 枯山水 茶道 → 簡素 気品

(例)

鴨川 → 桜 川床 紅葉 → 山紫水明 納涼

京都の「地理・歴史」を理解することで  
写真は「きれい」から「伝わる表現」へ進化します。

# 京都の歴史を学んで、撮影に臨みましょう。

---

平安時代: 「平安京」はどの位置にありましたか?

院政、平家の拠点はどこにありましたか?

鎌倉時代: 新仏教はどのように広がりましたか?

南北朝時代: 御所はどこにありましたか?

室町時代: 北山・東山文化 町衆の活躍

戦国時代: 応仁の乱 天文法華の乱

天下統一: 豊臣秀吉の都市整備 伏見開発

江戸時代: 産業都市 観光都市

幕末: 新選組 大政奉還 戊辰戦争

明治: 疏水 水力発電 三大事業(第二疏水)

---

探究し、発見を伝えることは上達への手助になります。

さらなる進化

まだ知られていない京都の魅力

---

有名観光地だけではない、静かな穴場。  
自分だけの一枚を探す楽しさ。

楽しむことが表現になる。

---

散策・食・文化体験を写真で記録、発信。  
写真は体験アウトプットです。

役立つことに繋がります。

# 人を撮る力も身につく。

知人を案内しながらの記念撮影。  
京都の旅の思い出が、永遠になります。

# 家族の思い出を京都で

日常の中で残す、かけがえのない記録。  
写真は人生の宝物になります。